

**自動灌水装置**

但東地域のピーマンほ場の脇に、青又は黒色のタンクが背丈ほどの高さに設置されているのを見かけます。これは「日射制御型拍動自動灌水装置」と言い、小型のソーラーポンプで貯水タンクにゆっくり揚水し、貯水タンク内の水位が一定レベルに達すると電磁弁が開き、ほ場内に設置された点滴チューブを通してピーマンの株本に給水され、水位が下がると電磁弁が閉じて再度貯水が行われる装置です。貯水タンク内の2つの水位センサーの間の水が間欠的に（まるで心臓の鼓動のように）配水されることから、拍動タンクと呼ばれ、毎分10リットル程度の水で10アール強の灌水ができます。また、ソーラーポンプで揚水することから作物が水を欲しがるとき晴天日には多くの灌水を行い、曇天や雨の日にはあまり灌水をしない仕組みになっています。この装置の利点は①肥料を拍動タンク内に投入することにより灌水同時施肥を行うことができること。②土壌水分と肥効が好適に保たれ、収量の増加につながることです。但東地域のピーマン農家では、このシステムを平成18年度から導入し、現在25戸の農家で運用しています。



**但東地域のピーマン**

但東地域のピーマンの歴史は古く、米の減反政策が始まった昭和44年に転作作物として導入されたことに始まります。以降、グリーンアスパラガス、きゅうり、なす、うど、実えんどう、さといも、モロヘイヤ、シルクなす、ツタンカーメンのえんどう、シルクコーンなど様々な野菜が導入されてきましたが、ピーマンは常にその中心にありました。農協の合併により現在は但馬全域に拡大し、ピーマン自動選別包装施設も導入され、現在は近畿圏最大の産地となり、主に大阪、神戸、京都の市場に出荷され高い評価を得ています。

J A たじまのピーマンは、183人の生産者で10万本余が栽培され、約650トンの出荷で、1億9千万円余の売り上げは青果部門の36%を占めています。その中で但東地域は、36人の生産者(20%)で3万8千本(27%)、出荷291トン(45%)、売り上げ9千万円(47%)を占め、但馬ピーマンの中心的存在となっています。これは、但東地域のピーマンの長い歴史の中で築かれてきた高い技術力と生産者の高い生産意欲、そして仲間同士の競争心と協調性が支えているものです。(農業委員 森井 脩)

**農業委員会 事務局職員の異動**

平成30年4月1日の人事異動に伴い、職員の異動がありました。

**転入**

主幹 古谷 明仁 (用地課から)

**転出**

主幹 谷田 芳紀  
(選挙管理委員会・監査委員事務局へ)

**全国農業新聞を購読してみませんか!**



**農業の最新情報を提供**

週刊(毎週金曜日発行)

月 700円 (送料、消費税込)

\*お申し込みは  
農業委員会事務局へ

**編集後記**

◇豊岡市農業委員会は、新制度発足から二年目を迎えました。昨年の要望を踏まえ、四月に各地区ブロックで開催された農会長会では、農業委員・推進委員が出席し、自己紹介と活動報告を行いました。

◇例年七月に農地パトロールを実施しており、各地区農会長等と連絡をとりながら遊休農地の解消を進めていきたいと思っております。

◇今回私たちがとよおか農委だより第四十号で豊岡特産農産物(ピーマン・豊岡ぶどう・小野芋・きはつとんなる人らあ(豊岡市で昨年大規模の竹野南宮農組合発足などを紹介しました。農家の皆さんの少しでも参考になればと考えております。

◇農業委員会では、農地利用の最適化を推進する業務を行っております。  
○担い手への農地利用の集積・集約化  
○遊休農地の発生防止・解消  
○新規参入の促進など

農業委員・農地利用最適化推進委員に気軽に声を掛けてご相談下さい。(編集委員長 宮岡正則)



農業委員会だより第40号は私たちが担当しました  
後列左から 田中直喜、西沢泰裕、森井 脩  
前列左から 齋藤善久、宮岡正則、原 清美